（1）　（明治25年3月28日第3種郵便物認可・昭和　TOMO SHIMBUN　昭和59年（1984年）6月26日（火曜日）　第32120号　（日刊）

上毛新聞
発行所（〒371）前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社
電話（前橋(0272)51-4341(代表)）
(高崎) 4343・4344
(桐生) 2345・2346
(伊勢崎) 3431(発送)4348
©上毛新聞社 1984

知事選の動跡

<1>

初の公選知事誕生

「コーヒー事件」で退陣

昭和二十二年。日本国憲法とともに地方自治が施行され、地方議会に直接民意を反映させる公選知事が誕生した。

大阪出身の北野の「かつての県政出身の北野の「かつての県政の腐敗を追放するなど本県を全国的に「現代政治」の新たな出発点とした一本化の経緯のなかで、北野から官選知事を引き継ぎ、最後の二カ月を務めた熊田知事選を皮切りに市町村長、国会議員、県会議員、市町村会議員の各選挙が一斉に行われた、いわば「選挙年」でもあったが、その知事選も「官選」から「公選」へと制度が変わり、初の公選知事として北野喜雄郷出身）らの名前も候補者として取りざたされた。

当時、酷寒厳から二十一年、二月、官選知事に就いていた北野は第二十二代、五人から二百十七人が休んだ。この年の五月に八十九人が欠席、県知事選挙も含む五つの選挙が行われ、各行政の長、議会の議員、同市内の学校給食センターが一斉に行われた。大量の欠席者が出たのは、九十一人の児童・生徒の欠席は、一中、二中の五校で、八十五人から二百十七人が休んだ。この年の五月に八十九人が欠席、県知事選挙も含む五つの選挙が行われ、各行政の長、議会の議員、同市内の学校給食センターが一斉に行われた。大量の欠席者が出たのは、九十一人の児童・生徒の欠席は、一中、二中の五校で、八十五人から二百十七人が休んだ。

北野重雄氏

北野氏の知事選挙得票

第1回当選	(22年4月)	371,102票	
	民主(社)前	201,511票	
	繁丸	8,629票	
	有効投票数	813,400人	
	投票率	75.34%	
第3回当選	(27年8月)	(無)	
	重盛	267,838票	
	徳武	204,404票	
	芳郎	204,035票	
	有効投票数	825,547人	
	投票率	83.10%	

北野県政

昭和二十二年四月五日投票の公選初の知事選に出馬した。

竹腰は知事選挙に行われた参議院選民主党で出馬するとともに、これまでとても影響大後援団体の推薦をとることができなかった。

例の「コーヒー事件」である。北野が就任五カ月後の九月十五日、戦後の復興を担う官僚出身の知事として期待されていた。

結果は北野が五十九万一千票余りを獲得して、二位の竹腰に約十万票の差をつけて当選した。

この時の北野の「勇退」の弁は「県政は